

わが社の

企業価値

山本忠信商店

農業生産者と消費者・流通加工業者を繋げる。その接着剤としてヤマチュウの存在意義を確立してきた。

食や農業を



全社員が勢ぞろい

山本忠信商店以下ヤマチュウは、豆、小麦を中心に穀物の集荷精選卸の会社だ。日本の穀倉地帯である十勝から、全国に穀物を流通させることを商いとしてきた。

素だ。

近年食の問題が頻発している。この問題の多くは、農業と食卓が乖離してしまっていることが根本的な要因である。

「自ら学び育つ」社員を育成

自ら学び育つ社員が生まれ

同社では、古来より、農業生産側の「つくる」と消費側の「食べる」はともにあつた。しかし、複雑化した流通によりその距離は離れ、間にある食品加工・流通業者によって食文化は形作られてきた。その歪みが表面化してきたのではないだろうか。

た、日本でも稀有な小麦粉を製造することが可能となった。自分の作った小麦の行方を知りたい生産者。安全安心な食材を求めている消費者。これを繋げることができるようになった。製粉のノウハウがあったわけではない。専門家を雇ったわけではない。ゼロからのスタートではあったが、ビジョンを実現するために、社員が必要なスキルを習得してくれる。これは、変化のための最も大切な要



ヤマチュウが出した答えは生産と消費を繋げることだった。「つくる」を「食べる」のものと近くに「このキャッチフレーズの下、

1年から製粉事業を開始した。従来の集荷事業において、農業生産者と強く繋がっていたことにより、畑から小麦粉になるまでのトレサビリティーが担保され、これを明確にすることで、同社では教育制度の確立、スキルマップ作成、外部講習会への派遣等、人材育成には力を入れてきた。「なりたい自分が描ける。そうなるための方法がわかる。」

▽本社 北海道河東郡音更町木野西通7の3▽代表者 山本英明 代表取締役
▽設立 1960年▽UR
L= <http://yamachu-to-kachi.co.jp>